

令和5年度第3回
関東学生ホッケー連盟役員会議事録

期日：2023年6月13日（火）

時間：19時30分～21時11分

場所：オンラインにて開催

出席者：一川邦彦、寺本祐治（副会長）、関谷淳一、塩野谷住雄（以上監事）、久我晃広（理事長）、萬納宏俊、成田健一（以上副理事長）、宮澤哲郎（事務局長）、下平歩実、桑原一矢、西澤英一郎、三澤孝康、栗原崇、近藤聡史、臼井伸一、高田良太、大野陽介（以上常任理事）、福島諒太（学連委員長）、関本隼（副委員長兼コンプライアンス委員長）、味方まひろ（副委員長兼表彰委員長）、宮瀬幸希（競技委員長）、川勝浩輝（審判委員長）、内村拓人（広報委員長）、金子桃子（財務委員長）、扇原柚子（書記）、西浦大道（学生役員）

【審議事項】

1. インカレ準備について

① インカレ実行委員会（第72回男子・第45回女子全日本学生ホッケー選手権大会）の立ち上げについて

・宮澤事務局長より、インカレ実行委員会の立ち上げについて説明があり、審議を行い、承認された。

運営組織図案が提示され、運営委員長は一川副会長、実行委員長は福島学連委員長に委嘱することを承認した。また、西澤常任理事より、大会IDを務める予定である旨の報告があった。

今年も昨年に引き続き大井での開催となるが、準決勝・決勝は大井サブピッチの開催となるため、会場設営など新たに対応する必要がある。

インカレ運営の主体は学生である。学生が主体的に準備を行う必要があり、過去の資料等を確認し、各委員会が早めに準備に取りかかることを確認した。

大会運営には相応の人員確保が必要であり、関東学連の加盟チーム全てが協力しないと、必要な人員が確保できない。今年は平日が3日あり、またイベントも開催予定であり、相応の人数確保が必須。

特に初日での相応の人数確保が必要であり、その部分を意識して動態表を作成することが必要になる。

・一川副会長より、サブピッチは部屋数が少なく、どの程度（ピッチ外に）テントが必要になるかなど、手配を早めに考えておくこと。7/1・7/2にH J L決勝が予定されており、その対応を参考にしてはどうか。またサブピッチ周辺の利用は「東京都港湾局」に施設使用申請が必要、学生と協働して対応したいとの説明があった。看護師手配も早めにTHAに依頼するよう指示があった。

・宮澤事務局長より、「第72回男子・第45回女子全日本学生ホッケー選手権大会実施要項（案）」の内容について説明があり、確認を行った。参加料変更（5万円）、また読売新聞社後援内容の見直しに伴い、読売新聞社杯・新聞報道の取り止めに報告された（JHAより連絡があったもの）。

なお、実施要項は日学連役員会で審議し、最終承認される予定。

② インカレ予算案について

・萬納副理事長より、インカレ予算案について説明があり、審議を行い、承認された。

参加料の見直し、また旅費交通費等を5%アップの前提で、昨年並みの広告協賛・チケット販売とした場合、関東学連負担金は約44万と前年比50万ほど改善を見込んでいる。また有料試合については、全ての試合を有料試合も検討したが、グラウンド有料試合による利用料増加、受付要員増加による日当増を考えると難しく、従来通り、準決勝以降を有料試合とすることとした。

昨年は各チームに有料チケットの割り当て（部員数分のチケット購入要請）を行ったが、今年は関東からの参加チームに広告確保（1チーム3万円）を要請することとした（チケット割り当てとは別にするかは未定）。

詳細は、今後、広報部門で検討を進めることとした。

③ インカレ工程表について

・福島委員長より、インカレ工程表案について説明があった。11週間前には、参加申込書を配布するなど、昨年度の反省を生かし修正が加えられた。

大会初日は、相応の動員が必要であり、20名は学生を確保したいとの説明があった。また大会前日11/7は、メインピッチ(13-21時)・サブピッチ(13-21時)で予約済みであり、PCなどの事前テストを行う予定との説明があった。成田副理事長より、事前テストについては秋リーグで大井を使用する際に(インカレ仕様で)PC・プリンターの稼働確認を行うよう指示があり、その方向で対応することとした。

2. 全国大学リーグ案について関東学連の対応方針について

・先般、日学連役員会で案として提示された「全国大学リーグ案」について関東学連の対応方針について協議を行った。福島委員長より、学生側からの意見が共有された。学生の意見として「リーグ戦よりも優先されることの懸念」「運営上の難しさ(日程が厳しい)」「上位校のみが出場し、王座の縮小版(開催に疑問)」など否定的な意見の一方で、「競技力向上に繋がる」との肯定的意見もあった。社会人理事からは、成田副理事長より「現行の日本リーグから大学が外れることを前提としての案と考えているが、短期間にこれだけの試合数を消化するには、会場確保のほか、T0、ジャッジなどの絶対数が不足する。円滑な試合運営は不可能ではないか」との意見があった。今後、日学連で協議される場合は上記意見を踏まえ対応することとした。

【報告/連絡事項】

1. 関東リーグプログラム釣銭の盗難(紛失)について、三ツ川学生役員より詳細な報告があった。

・本件は大井で発生したものであるが、不特定多数の人が出入りする場所では厳重な管理が必要。再発防止が重要であり、新たに「受付業務確認シート」を作成し対応することとした。

2. SNSにおける不適切投稿について、臼井社会人常任理事より報告があった。

・新歓活動においてSNS投稿について苦情があったもの。久我理事長より、本件は学連に寄せられた苦情ではなく、また当該大学から処分が下されたものではないが、各チームに注意喚起を促す必要があるため、役員会で報告事項とした旨の説明があった。また、コンプライアンス担当高田社会人常任理事より、今後のコンプライアンス研修において、モラル的なテーマ、法令順守的なテーマを検討したいとの説明があった。

3. 東西交流戦について、味方副委員長より報告があった。

・7月16日(日)立命館OICフィールドにて、今年は女子が開催予定。関東学連1部5,6位:フィールドプレイヤー3名+GK1名、2部7位:フィールドプレイヤー2名、2部上位3校:フィールドプレイヤー6名、北信越学連よりフィールドプレイヤー2名の計18名で構成される旨の報告があった。

4. D級審判講習会の実施報告、収支決算について、川勝審判委員長より報告があった。

・成田副理事長より「審判の確保が厳しい状況であり、各チームの協力が必要」との補足があった。

他、春季学生リーグ運営上の反省点としてスティックシール配分が各会場バラバラであり、確認を進めることとした、

以上

(押印略)

関東学生ホッケー連盟副会長 一川邦彦

関東学生ホッケー連盟理事長 久我晃広

関東学生ホッケー連盟学連委員長 福島 諒太